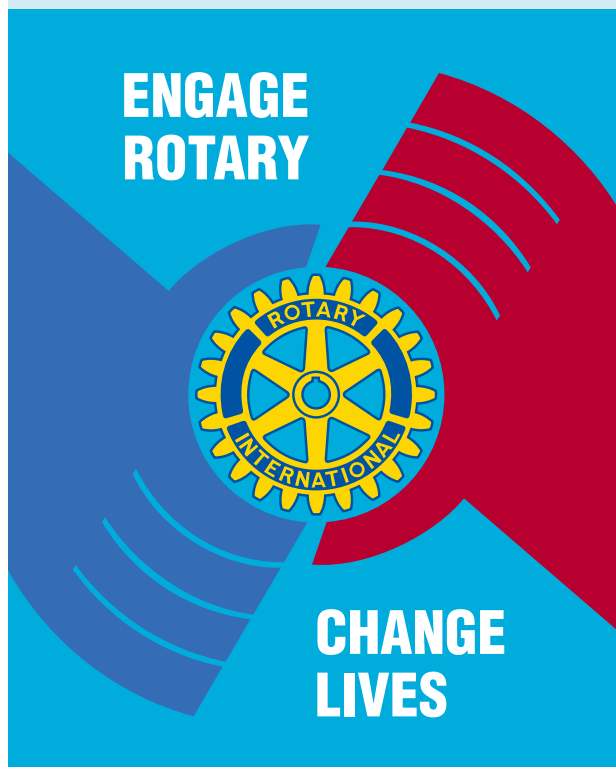


2013 – 2014
October
vol. 4

10



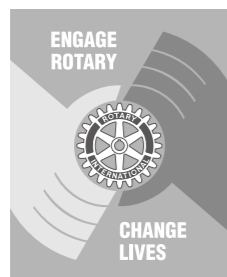
ROTARY INTERNATIONAL
DISTRICT 2660

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ガバナー一月信10月号

国際ロータリー 第2660地区
2013-2014年度ガバナー

福家 宏



2013-2014 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER October vol.4

CONTENTS

ガバナーメッセージ（職業奉仕月間／米山月間）	1
職業奉仕月間によせて	3
米山月間によせて	4
クラブ国際奉仕委員長会議 報告	5
クラブ社会奉仕委員長会議 報告	6
少年少女ニコニコキャンプ 報告	7
インターアクト海外研修 報告	8
米山奨学委員会 大学／地区意見交換会	10
米山奨学委員長およびカウンセラー研修会 報告	11
ガバナー補佐からのメッセージ	13
我がクラブの目指すところ（IM第1組）	14
災害支援プロジェクト報告（第28回）	18
地区ロータリー財団セミナー報告／ロータリー財団情報	20
米山奨学委員会／ロータリー財団	23
2013年8月度 会員数・出席報告	25
文庫通信	26
敬弔／お知らせ	27

職業奉仕および米山月間

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

福家 宏



職業奉仕月間

先ずこれより記載する内容は、RIの「職業奉仕入門」の抜粋であります。

「ロータリーの目的」は、ロータリーの存在目的とロータリアンの責務について記した哲学的な声明です。職業奉仕はその第2項を土台としています。即ち「職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする」と第2項です。この項でロータリアンは次のことを奨励し育てることが求められています。

- 職業上の高い倫理基準
- 役立つ仕事は全て価値あるものという認識
- 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする

そして職業奉仕はどのように実践できるのでしょうか。いくつかの方法があります。

- 例会で、各会員が自分の職業について話し、互いの職業について学び合う
- 地域社会での奉仕プロジェクトで職業スキルを生かす
- 高潔の精神で仕事に取り組み、言動を通じて模範を示すことで倫理的な行動を周囲に促す
- 若者のキャリア目標を支援する
- 専門能力の開発を奨励し、指導する

職業奉仕に意欲と熱意を感じる人にとって、ロータリーほどその実践にふさわしい場はありません。職業奉仕はロータリーの真髄であり、ロータリーをほかの団体と分かつ要素でもあります。（以上が抜粋です）この短い説明の中には、私たちが学ぶべき大切なことが濃密に盛り込まれていると思います。

職業奉仕はロータリアンのすべての活動の根幹をなすものだと思います。私の仲間のある医師（ロータリアン）が職業奉仕月間にこんなことを言いました。「私は患者さんの立場に立って、患者さんを自分の家族のように思って日々診療をつづけているけれど、職業奉仕など難

しいことを言わなくても、それでいいのではないかな」私は正しくそれは立派な職業奉仕だと返事を致しました。この医師はこのような形で職業奉仕を実践しているのです。しかしこれは職業奉仕の一つの姿に過ぎません。職業奉仕活動を実践するとすれば、やはり、他者への働きかけも必要かと思われます。それが上述の「職業奉仕の実践」です。これにはロータリーならではの活動方法が示されていると思います。

今年度から「未来の夢計画」FVP:Future Vision Planが始まりました。新しくVTT: Vocational Training Teamというプログラムが提供されています。これまでのGSEとは異なり、交換は必須では無くなりました。VTT（職業研修チーム）は、実地参加を通じて職業奉仕の機会を提供しています。これなどは「職業奉仕活動」の典型的なものだと思われます。ただし、このプログラムの実践はそれほど容易では無いのが残念であります。

米山月間

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会は、外国人留学生を支援する、国内では民間最大の奨学団体です。

目的：将来母国と日本の懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することです。

規模：米山奨学生の採用数は年間800人で事業規模・採用数ともに民間では国内最大です。

特色：奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援が特色です。

さて当地区は今年度米山奨学事業への特別寄付は3万円という目標を掲げました。

何故3万円に増額されるのかについて、皆様のご理解を頂きたいと存じます。（以下西谷雅之地区米山奨学委員長の文書を拝借致します）

この国際奨学事業は1952年、米山梅吉氏の功績を記念して始まりました。戦後の復興の途上にあった当時の日本にとって、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために世界の国々との人物交流を深める必要性を多くの人

が感じていた時代背景のもと、ロータリー米山記念奨学事業は「留学生が平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築く」ことを目的として始められ、『日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業』と高く評価され全国に拡大し、国際ロータリーが認める日本で唯一の日本の全ての地区が関わる「他地区合同活動」となり、日本最大の民間国際奨学事業として現在に至っております。

しかしながら、奨学生の採用数を見ると2005年にそれまでの1,000名から800名に削減、特別積立財産を取り崩して2012年度採用までの8年間800名を維持してまいりましたが、2013年度採用より更に100名削減の700名となっているのが現状です。

当RI第2660地区に目を向けますと、2008年には42名の採用と地区全クラブ数の約半分のクラブに奨学生を送りこむ事ができる採用数を割り当てられておりましたが、2013年度は新規採用28名と継続奨学生10名の38名となっております。

採用奨学生の中で最も多いのは大学院生で、月140,

000円の支給を受けていますので、それをもとに試算いたしますと、

奨学生1人にかかる

年間の費用 140,000/月×12か月=1,680,000

全84クラブで必要となる年間の費用

1,680,000/人×84クラブ=141,120,000

当地区ロータリアンの数を3,700名としてお1人当たりにお願ひしたい年間寄付額 $141,120,000 \div 3,700 \text{名} \approx 38,141 \text{円}$ となります。(以上西谷委員長の文書を拝借致しました)

これが、特別寄付目標額3万円の根拠です。詳しくは当地区G月信8月号に、西谷雅之地区米山奨学委員長が投稿されておりますので、これをお読み頂きたいと思ひます。

世界に誇る米山奨学事業がすたれることの無いように、皆様のご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

職業奉仕月間によせて 今こそ実践

職業奉仕委員会 委員長

岡本雄介 (大阪大手前RC)



「職業奉仕」とは「奉仕の理想」とは、「なんのためにロータリークラブにはいるのか」など疑問に感じられたことはありませんか。私は特に地区職業奉仕委員長を拝命してからそのように感じられることが多くなりました。自分が行動するとき、常にその成果や自分の得るもの、学ぶもの、相手にもたらす影響などを先に想像してしまいます。

私は建築業ですが、自分の仕事上では私たちが建築した建物でお客様が幸せに生活していただくことを願ってやっていると、紆余曲折があったとしても最終的には喜んでいただけると確信を持って仕事に臨めます。ロータリーの職業奉仕という理念に対してはまだその感覚にはなれませんでした。それを払拭してくれたのが今年度地区職業奉仕委員会に出向してくれたある委員の話でした。

自分のクラブの職業奉仕委員長の時に出席授業を企画して、初めて実施されたそうですが、ご本人も職業奉仕についてはそれほど理解していなかったとのことですが、出席授業を終わって初めて「職業奉仕」について感

ずるものがあったとのことでした。「そしてやってよかった」という思いも一入だったと…。

先日昨年度の地区職業奉仕委員長とお話する機会がありました。ロータリーも仕事もバリバリされています。「職業奉仕に対して何か答えを持っておられますか？」とお聞きすると、「とにかくたくさん奉仕して、すればするほどそこから力をもらえるんですよ。そしてそのパワーを自分の仕事に注いでいるんです」とおっしゃいました。今一番自分の納得できる答えでした。悩むより実践だと痛感いたしました。

今年度は前年度委員長が作成された「職業奉仕に関するパワーポイントの資料」を各クラブの委員長さんにお配りしました。卓話やフォーラムに是非ご活用いただきたいと思ひます。また出席授業・職場体験学習を実践しやすいように地区委員会で資料を作成し、情報提供させていただきます。

福家ガバナーの方針は「参加し、敢行しよう」です。今年度は各クラブで職業奉仕に関する事業を是非実践に向け動き出す時です！

米山月間によせて なぜ米山奨学事業なのか

米山奨学委員会 委員長

西谷雅之 (大阪城南RC)



「日本が第2次世界大戦に向かって突き進んでいかなければならなかったのは日本の味方をしてくれる友好国が無かったから」

これは中学3年生の時の歴史の先生の言葉です。明治維新を成し遂げ近代化・西洋化の道を歩んだ日本。眠れる獅子と呼ばれた清に勝利し、世界最強と言われたバルチック艦隊をも破った極東の小さな島国日本は当時の列強と言われる国々の目にはどの様に映ったのか、列強に追い付け追い越せという過程で友好国を作る努力を怠った日本はやがてその包囲網から国際連盟を脱退するしか道が無くなって行く、その時止めてくれる国や諒めてくれる国、また仲を取り持ってくれる国が無かった事が日本の不幸ではなかっただろうか？先生はそう仰いました。それから20年、私はロータリークラブと言う場でその言葉を思い出す事になりました。

「将来の日本の生きる道は平和しかない。その平和日本を世界に理解させるためには、アジアの国々から一人でも多くの留学生を日本に迎え入れて、平和日本を肌で感じてもらうしかない。それこそ、日本のロータリーに

最もふさわしい国際奉仕事業ではないだろうか」奨学事業の構想が立案されたのが終戦の7年後、そしてその5年後に全国組織となるロータリー米山奨学委員会が結成されました。上記の言葉は当時の日本のロータリアンの偽らざる気持であったと思います。

さて、今年は米山基金の募金が開始されて60年目になります。人生で言えば還暦を迎えた米山記念奨学会はここ数年その体力が下降傾向にあります。1000人規模であった奨学生数は800人となり今年度から700人になりました。この60年の間にバブルの崩壊など日本と言う国の体力低下、それに伴う日本のロータリーの体力低下は有るでしょう。しかし、奨学制度設立当時の日本のロータリアンの心まで低下させてはならないと思います。

是非奨学事業の使命・意義を再確認し、構想立案当時の時代背景やロータリアンの心に想いを馳せて頂きまして、米山奨学事業へのさらなるご理解ご協力をお願いいたします。

クラブ国際奉仕委員長会議 報告

国際奉仕委員会 委員長

栗原 大 (大阪フレンドRC)

8月3日に第1回クラブ国際奉仕委員長会議を開催させて頂きました。各クラブの国際奉仕委員長総勢100以上の皆様に出席頂き無事終了できる事ができました。心より御礼申し上げます

【福家Gから開会のご挨拶】

第2660地区の各クラブの活発な国際奉仕活動に、さらなる今年度も活動を期待されました。また今年度から新しく始まるFVPについては、資金力に難易度が高いプロジェクトについても有効に活用できるシステムである事を話されました

【国際奉仕委員会 委員長 栗原 大の今年度の国際奉仕活動について】

今年度、地区国際奉仕委員は10名の委員で構成されております。各IMごとに担当を決めており、国際奉仕活動についてご質問・ご相談ございましたら、担当メールにて頂ければご回答差し上げたいと思います。世界社会奉仕に変わる呼称について今年度当地区は国際奉仕プロジェクト、また基金については国際奉仕基金と変更になっております。またアンケート実施につき、当地区の国際奉仕活動をクラブ単位で確認してもらうことにより、IM内・近隣クラブ同士の共有資料にして頂き、まだ国際奉仕プロジェクトが未計画なクラブ様には出来るだけクラブ同士でプロジェクトへ参加を促していただきたいと思います。地区内のすべてのクラブ様

が国際奉仕プロジェクトに携わっていることを今年度の目標とし地区国際奉仕委員会としては精一杯ご協力させて頂きます。最後に今年度は新しい補助金システムが始まりますが、随時情報源を分かりやすくお報告したいと考えています。是非、地区発行の地区国際奉仕ニュースレターを会長・幹事・国際奉仕委員長に、ご確認頂ければと思います。

【地区財団補助金小委員会 地区補助金 グローバル補助金担当グループ 四宮孝郎リーダーからのロータリー財団の補助金について】

ロータリー財団の補助金の概要説明および申請要件についてお話がありました。地区補助金については前年度からの計画の必要性そしてグローバル補助金については期限はございませんが、プロジェクトの立案について授与と受諾の条件・補助金管理の手引きをよく理解し計画する必要性がありますが、新しい補助金システムを貴クラブのプロジェクトに有効に活用して頂きたいと話されました。

【泉博朗GEからの講評】

第2660地区各クラブの活発な国際奉仕活動に、さらなる今年度も活動を願っております。

【国際奉仕部門 顧問 横山守雄PGから閉会のご挨拶】

各クラブが大小かわかわらず国際奉仕活動を活発に実施されることを期待します。



クラブ社会奉仕委員長会議 報告

社会奉仕委員会 委員長

西宮富夫 (箕面RC)

2013年8月10日(土) 2時より、葉業年金会館にて第1回クラブ社会奉仕委員長会議を開催し、成功裏に終了いたしましたことをご報告いたします。

まず、福家 宏ガバナーより、各クラブは毎年単年度で完了する社会奉仕プロジェクトを実施することが義務付けられていることなどご参加の社会奉仕委員長の皆様を激励するご挨拶をいただきました。

次に、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所の井上貴嗣河川環境課長より、ワースト1と言われた大和川にアユが遡上するほどに水質改善が進んだことについてご講演をいただきました。昭和38年には大和川は泳げたが、昭和45年には日本で水質ワースト1となり、その後水質改善を進めてきたが、平成17年からは流域住民が一斉に生活排水対策を実施することでようやく環境基準BOD 5mg/ℓをクリアできるようになったとのこと。

環境省の報告書によると、アジア各国では都市化によって河川の汚濁がかっての大和川同様深刻な問題となっているようです。ロータリアンができることは大和川で実施された「流域住民が一斉に生活排水対策を実施する手法」を海外に紹介することと思われました。

次に大阪府健康医療部薬務課麻薬毒劇物グループの

藤川博之総括主査より、大阪府の薬物乱用防止についてご講演をいただき、大阪府の薬物事犯は増加傾向にあって憂慮すべき状況であり、しかも青年層に乱用が広がっているとの報告がありました。大阪府としては「正しい知識」「手を出さないこと」などをキャンペーン等の啓発活動を通じて訴えることや学校での薬物乱用防止教室、地域での講習会の開催などを推進しているとのことでした。

また、地区補助金小委員会宮里唯子委員長より、地区補助金の申請と管理について各種注意事項のご説明をいただきました。今年は地区補助金申請締切が5月末とのことですが、2月にはMOU提出による補助金申請資格認定もあり、全クラブに参加してほしいとのことでした。

最後に、泉 博朗ガバナーエレクトから社会奉仕委員長がクラブの奉仕活動の主役であり、毎日の暮らしの中でやりたいと思うことがあればぜひやってほしいとの激励がありました。また、大阪府赤十字血液センターの「血液事業の現状と今後の献血活動の取組み」に関する資料について、献血はロータリーの重要な社会奉仕活動と考えていますとのコメントがありました。



少年少女ニコニコキャンプ報告

青少年活動委員会 委員長

西本健二 (吹田江坂RC)

2013~2014年度少年少女ニコニコキャンプは「夏だ！わいわい友達と思い出つくろう！」をテーマに、8月2日から4日まで大阪府泉南市の紀泉わいわい村におきまして2泊3日のプログラムで実施いたしました。

まずはこのプログラムの準備、運営で大変ご苦労頂きましたホストクラブの大阪北RCの皆様へ厚く御礼申し上げます。また同じく大阪北RCの皆様を中心とする多くのローターアクターの皆様本当にお疲れ様でした。常にローターアクターの良き相談相手になり縁の下で支えていただいたチームライラの皆さんにも感謝いたします。

今回の参加人数は児童76名、ローターアクター54名、そしてロータリアンの登録は539名頂きました。このプログラムは地区内各クラブの皆様よりの児童の推薦及び登録なくしては成り立たません。多くのご登録に対して感謝申し上げます。

さて今年の少年少女ニコニコキャンプの内容を簡単にご紹介いたします。

ゲームもない、テレビもない、携帯電話もない、クーラーもないし冷蔵庫もない。クワガタやカブトムシ、ムカ

デやクモまで色々な昆虫や沢山のかえる、そんな環境での3日間のキャンプでした。

朝ごはんは、子供たちがかまどや七輪を使って作り、五右衛門風呂も体験いたしました。昔の日本の暮らしを通して感じるものがあったと思います。また恒例のキャンプファイヤー、カレー作りを通して自分一人では何もできない、友達の大切さを実感したことでしょう。

ニコニコキャンプの目的は二つあり、一つは子供たちが友情や連帯や心の豊かさを養い、自然に対する畏敬の念を持つことであり、もう一つはローターアクターのリーダーシップ研修の場でもあります。今回の少年少女ニコニコキャンプは以上二つの目的を十分に達成したと思います。加えまして子供たちの言動、表情は実に正直で可愛いものでした。

あらためて子供たちと接することで、子供たちの将来に思いをはせロータリーの青少年奉仕の大切さを再認識いたしました。このプログラムは当地区オリジナルのものですが、来年以降も新たなホストクラブ様のもと、さらに発展する事を切望いたしますとともにロータリアン各位の一層のご協力をお願い申し上げます。



インターアクト海外研修報告

インターアクト委員会 委員長

松井隆雄 (大阪天王寺RC)

本年度の海外研修は8月4日～8日まで現地3泊5日の行程でRⅠ第3350地区タイ・バンコクを訪問しました。

参加者は6校(清風・相愛・金光八尾・四天王寺・浪速・大阪桐蔭)のインターアクター30名、顧問の先生7名、ロータリアン13名、ガバナー事務所事務局長、看護師、合計52名。当地は昨年度に第2660地区のローターアクター28名が海外研修で訪問したところでもあります。

第1日目

関西国際空港4階特別会議室で結団式(出発式)を行いました。早朝から福家ガバナー・泉ガバナーエレクト・IM8組の新見ガバナー補佐ご夫妻にご臨席頂き、また多数の提唱クラブ(大阪南・大阪・八尾・大阪天王寺・大阪帝塚山・大東)のロータリアンと保護者の皆様が見送りに来て頂きました。

福家ガバナーの挨拶の中で「可愛い犬が近づいて来ても、手を出さないように、注意して下さい。噛まれると狂犬病になり大事になります」との言葉は現地で全員が犬に敏感に反応していたのが印象的でありました。

日頃6校のインターアクトクラブは個別に奉仕活動をしています海外研修はインターアクター全員が一致団結して行動することを誓い、タイ・バンコクへ向け出発しました。Suvarnabhumi(スワンナプーム)国際空港に到着すると、RⅠ第3350地区のPP(直前会長)Boonlert kidsomkiatさん、Assistant Governor(ガバナー補佐)Somboonさんら多数のロータリアンに出迎えられました。

空港から約40分間バスに乗り宿泊先のザ・ツインタワーズ・ホテルバンコクに到着、チェックイン後小休止をして再び専用バスでタイ古典舞踊のディナーショーを見るためSILOMVILAG(シーロンビレッジ)に行き、そこでタイ料理の食事をした後、ホテルに戻り、河内音頭のリハーサルをしました。

第2日目

エメラルド寺院・王宮見学後、交流会の会場であるSrivikorn Highschool(シリビヨンハイスクール)行きました。学校の体育館・講堂に通されインターアクターによる管弦楽の演奏と美しい歌声で歓迎を受けました。

用意された昼食を頂き、グループに分かれ校舎内の教室・図書室・実験室・音楽室・コンピューター室・理科(生物)標本室・談話室・遊戯室・インターアクトクラブ部屋等の全館を案内して貰い、授業中の風景やジニアスクラスのゼミを見学させていただきました。この学校は幼児から高校生までの総合教育をする私的機関でありました。(学校の理事長がロータリアンとお聞きしました。)カリキュラムが個性重視・子供中心・英語プログラムに組み込まれており、設備の整った広大な敷地に建てられた校舎は富裕層子弟の英才教育の環境に創られていることに感激しました。

夕刻からRⅠ第3350地区ガバナー Prawitrojkaajonnapalai氏が来られ、Srivikorn Highschoolのインターアクターの司会による夕食会と交流会が開かれました。日本のインターアクターは浴衣に着かえグループごとにタイのインターアクターとテーブルを囲み食事と談話をして楽しく交流を深めておりました。Prawitrojkaajonnapalai氏から歓迎の言葉を受け、タイロータリー旗やタイ人形の贈呈を受け、記念品の交換、パナーの交換等たくさんの贈り物を頂き、プロのグループによるタイ歌謡や日本の歌謡曲が披露され、日本のインターアクターとロータリアンは法被をはおり手にうちわを持ち河内音頭を披露しました。途中からは両国の会場にいた人たちが入り、乱舞し交流会は絶好調になり、タイのインターアクターによる舞踊や歌が絶唱され交流会は最高潮に達しました。踊り終え法被とうちわをタイのインターアクターやロータリアンに差し上げました。

閉会時にはRⅠ第3350地区バスターガバナー Chairat Presertlum氏が駆けつけて来られ閉会の挨拶を受けました。全員で記念撮影をして、タイのインターアクターやロータリアンと別れを告げ宿泊先への帰路につきました。

第3日目

早朝よりバンコクから130キロ離れたカンチャナブリーへ行きました。タイのインターアクターも同行して日本のインターアクターとの交友を深めていました。

洞窟時で浮遊する尼さんのショーをみて、象の背中に乗ってジャングルクルーズを楽しみました。竹で作っ

たいかだに乗って川下りをしました。いかだを操る船頭は前日交流会で会ったインターアクターと同じ年頃か、それ以下の少年でありました。稚拙な竿捌きにもまして働く姿を見てタイの地方と都市との国民の間に著しい貧富の差を感じ、感傷的になりました。

旧泰緬鉄道の列車に乗りクワイ(クウエー)川鉄橋を渡るため待つこと1時間20分・乗車時間(一駅)20分・その間車内でのドリンクサービスと絵葉書等の車内販売がありました。バスに乗り換えクワイ川鉄橋に向かい、映画「戦場に架ける橋」の舞台になったクワイ川鉄橋を歩いて渡りました。

第4日目

水上マーケット(DamnoenSaduak)に行くため運河を航行する6人乗りのロングテールボートに乗り込みました。運河の両岸には古い民家が並んでいましたが、景観を楽しむ遊覧船とは違いました。その後はバンコク市内の免税店や民芸品店へショッピングにタイのインターアクトと行動を共にしていました。

帰国準備を済ませホテルの夕食会場で解団式を行いました。

委員長として今回の海外研修の総評を行いました。

ハードなスケジュールであった感が致しました。一時体調を崩した生徒(インターアクター)がおりました

が、事故もなく全員元気に帰国できることが何よりであります。出発の際、6校のインターアクター全員が一致団結して助け合い、協力して行動して下さいとお願いしましたが見事にこのお願いを聞いていただき自覚と責任ある行動をとって頂きましたことを感謝いたします。二日目の交流会は筋書きな交流会でありましたが、現地のインターアクトクラブ・ロータリアンから心暖まるおもてなしを受け、和気あいあいとした雰囲気の中で交流を深めることができ実際親善、国際交流に貢献して頂き、海外研修の目的が達成できたと確信し、感謝いたします。

今回の海外研修の企画、実施を担当いただきました清風高校のインターアクトクラブの皆さん、顧問の中村先生・高橋先生に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。そして最初から最後まで全般にわたりお世話頂きましたガバナー事務所の栗正事務局長さんに感謝いたします。ありがとうございました。

同行頂きました顧問の先生方、そしてロータリアンの皆様方どうもありがとうございました。海外研修は来年も行われますのでご支援、ご協力のほどよろしく願いたします。

解団式(会食)を済ませ日本へ帰国の途に着きました。



米山奨学委員会 大学／地区意見交換会

米山奨学委員会 委員

北山治信 (東大阪みどりRC)

日時：2013年7月12日(金) 15:00～17:00

会場：ガバナー事務所

参加者：西谷雅之委員長、近藤菜穂子副委員長、

田中真人、吉田悦治、田中隆弥、古城紀雄、島井宏子、口野孝、北山治信各委員

参加大学等：追手門大学、大阪大学、大阪教育大学、大阪経済大学、大阪経済法科大学、大阪工業大、大阪国際大学、大阪産業大学、大阪商業大学、大阪市立大学、大阪電気通信大学、関西大学、関西外国語大学、近畿大学、摂南大学、相愛大学、東大阪大学、(独)日本学生支援機構 大阪日本語教育センター、大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪ハイテクノロジー専門学校

7月12日、地区米山奨学委員会と大学・専門学校との地区懇談会がガバナー事務所会議室で行われました。2014年度の米山奨学生を選考するにあたり、17の大学と3校の専門学校の担当者の方々にご出席頂きました。

古城委員の司会のもと、西谷委員長が挨拶され、昨年より重視された学校からの推薦学生の国籍基準、推薦される学生が一国籍で過半数を占めないと言う内容を再度確認され、米山奨学事業の抱えている現在の問題点についてお話しされました。

現状、米山寄付が減り採用される米山奨学生も少なくなっている現実を打破する為に、どの様な留学生の推薦をお願いしたいかと言う具体的な次の内容も発表されました。

- 1) 推薦される学生の現在の日本語能力は問わない。
- 2) コミュニケーション能力が有る事。
- 3) ロータリアンの方々にかかれる性格で有る事。
- 4) 例会(月に一回)、米山行事への積極的な参加が出来ること。
- 5) 奨学生終了後もロータリーとのつながりを大切に出来る事。

以上の様な学生を推薦して頂き、ロータリアンの中での米山奨学事業ファンを増やす事につなげ、ロータリアンの米山寄付を増やしていただき、当地区で採用できる米山奨学生を増やす事に、大学等担当者の皆様に御協力願いたいと述べられました。

つづいて、大学等の担当者の皆様に事前にお願ひしました、アンケートの内容について、募集・審査・面接・選考・ロータリーへの推薦に至る流れを各校に発表して頂きました。各校が発表された内容につき、地区米山委員との具体的な内容の確認・質疑など、米山委員の米山事業に対する熱い想いをお伝えする事も出来ました。

また、学校の担当者の方より昨年米山奨学生であった生徒が「例会参加や世話クラブの行事に参加して世界が広がった」と言う具体的な事例の発表も有り、最後に近藤副委員長の挨拶で、大学等の担当者の方をはじめ、担当教官、教授の方にもこの米山事業をもっと御理解いただく事をお伝えし、大学等と地区米山委員会が協力し、感動を与える米山奨学事業にする事を確認して閉会しました。



米山奨学委員長および カウンセラー研修会 報告

米山奨学委員会 委員

三木得生 (豊中南RC)

概要 2013年7月27日 午後14時から16時まで OMMビル1-3号室

参加者 73クラブの米山奨学委員長およびカウンセラー 80名、福家ガバナー、若林地区米山担当顧問、近藤米山奨学会副理事長、正岡・井上・辻本・山田 各IMガバナー補佐、磯田地区研修委員、米山奨学委員長以下12名の地区委員、総計100名

以下、式次第の順に報告いたします。

福家ガバナーあいさつ

米山の制度が順調なのは、カウンセラー制度に負うところが大きい。とくに精神面でのサポートの力が大きい。今後もしっかりと奨学生と絆を結んでいただきたい。

現在、財政事情がよくなり奨学生の数を減らさざるをえない状況にあるので、1.5倍の3万円のご協力をお願いした。

西谷委員長あいさつ

「米山を身近に」が今期のスローガンです。全クラブに奨学生を付けるには、会員一人あたり4万円の寄付金で可能。それをめざすために当面3万円をお願いする。強制ではないが、米山の意義を深く理解してもらい、気持ちよく寄付いただくことができるように、この研修会を開催した。

近藤米山奨学会副理事長の問題提起

奨学生の現地採用にもっと関心を持つべきである。お金の問題で、一人あたりの奨学金の額が、ほんとうに感謝してもらえるほど十分なのか調査する必要がある。

日本人に金を出して海外留学をさせたらとの意見があるが、日本財団の仕事で、米山の役割ではない。

中国人留学生が多すぎないかとの意見については、本当の人類愛の気持ちで対処すべきである。

学友会からの推薦が台湾からだけであること。これは、日本の大学の魅力が減っているからではないのか。反省が必要では。

私はフルブライトで2年アメリカ留学したが、ホスト

ファミリーに愛情をもって面倒を見ていただいた。そのことが忘れられず、いまでも私は親米派だ。カウンセラーの皆様が温かい心で奨学生に接していただいて、日本ファンをつくってほしい。

DVD鑑賞「米山梅吉とその生涯について」

米山梅吉の生い立ちからロータリー結成とその後の活躍まで、ドラマ仕立てのDVD。約30分(思わず引き込まれてしまいました。日本におけるロータリーの歴史が学べました。初めて見たという方が多かったです。)

「米山奨学会の今後の展望」 古城委員によるパワーポイントを使った解説

米山奨学事業についての歴史と意義について、図や写真をもふんだんに用いたで説明している。とくに第2660地区における取り組み状況をたいへん詳しく報告されており、この事業の大切さがよく理解でき、それに関われるロータリアンとしての誇りとよろこびをよびおこしてくれる。約40分(今年度より寄付を3万円にすることを皆様に理解していただくうえでもたいへん有用なツールとなります。)

若林顧問の講評

これまで、テーブル別けしてのバズセッション形式だったが、今回は、スクール形式で、米山記念奨学事業について、その誕生のいきさつから現在の取り組み状況まで、正確に詳しく理解できるように工夫されていた。

DVDの映像は初めて見たが感動的であった、また古城委員は率直に寄付金の増額を訴えられた。



浄財は目的と感動が合わさってなり立つものだ。皆様にはご苦勞をおかけするが米山を幅広く知っていただけるよう力を貸していただきたい。

福田副委員長閉会の辞

カウンセラーのみなさんには、奨学生と直接ふれあ

ながら、共にはぐくみ育ち合う関係「共育」の観点でがんばってほしい。

単純計算で、1177名の会員が特別寄付をいただいている。お一人1万円で奨学生6から7名増やせる。より一層のご協力をお願いしたい。

本日は長時間ごろうさまでした。



[ガバナー補佐からのメッセージ] IMの将来像



IM第1組 ガバナー補佐

正岡 哲 (池田くれはRC)

私がロータリーに入会したのは、29年前のことです。入会時に「ロータリーの綱領を守って、クラブの会合に出れば良い。地区の大きな会は、地区大会とIMだからそれには参加しなさい。」と教えられました。

それを守って29年間、殆どの例会と地区大会、IMに参加しています。その体験から考えるなら、本来「ロータリー」は、私達が自分の職場以外の人達と接して楽しい時間を持つためにあるものです。そのためは、ある程度のルールに従った活動をしないとルーズになって楽しくないと感じてしまいます。

ルールは、時代とともに変化します。また、人間の考え方も変わります。しかし「公正さ」と「信頼」は人類の不変の望むものでしょう。ロータリーは、この精神が根底にあるので、私は、ロータリークラブにずっと入っていると云っても過言ではありません。

この考えを常に持って、ロータリークラブは、様々な方向へ歩んできました。各クラブ運営や地区大会やIMもそうです。その事業を行う上で、その精神さえあれば、少々変わっていても、何をしても良いと私は考えています。

クラブで節約して工夫した会をもったり、少し高い講演料を払って有名人に話しをしてもらったり、メンバー会員参加型であったり、クイズをクラブ対抗戦形式で行ったりしても良いのです。どのような形式も長所と欠点があります。一方へ片寄ると改善すれば良いのです。人間の社会は、これこそ最善というものはありません。どんなに善いものでも繰り返すと飽きがきます。

これからのIMの将来像は、参加した後、楽しかったと感ずることができるものでありさえすれば、それが最善と言えるのではないのでしょうか。

我がクラブの目指すところ (IM第1組)

池田RC 会長

田嶋也寸志

池田ロータリークラブは、本年度創立60周年を迎えます。5つの子クラブ、6つの孫クラブ、1つの曾孫クラブに恵まれた伝統のあるクラブですが、伝統を受け継ぎながらも新しい時代に即したクラブに変化していかなければなりません。また、地域に根ざしたクラブとして、地域社会との密接な関係を維持していく必要があります。

このような状況の中で、当クラブは会員減少と例会出

席率の低下という大きな問題を抱えています。特に会員減少は各クラブ共通の問題であると思いますが、その解決のためにも外部に開かれたロータリーであることが必要です。

また、奉仕活動においても自己満足に終わること無く、客観的に成果を評価しなければなりません。このような奉仕活動と広報活動を継続的に行うことで、地域と世界に貢献できるクラブ目指していきます。

池田くれはRC 会長

松室利幸

当クラブはお陰様で2014年4月に創立30周年を迎えます。スポンサークラブである池田ロータリークラブの創立30周年を機に設立されました。

昨年度のIMホストに続き、今年度も様々な創立記念事業の実施に向けてクラブも非常に良い雰囲気になっております。

記念事業を策定するに当たり、クラブ内で今後のクラブの在り方について議論を重ねた中で、私たちはロータリー創立の原点に立ち返り、会員相互の親睦を通じて魅

力あるクラブ創りを目指し、会員ひとり一人がクラブにより一層愛着を持ってもらえるようにすることが重要であると考えております。

また対外的には、行政や地域各種団体の皆様方と例会や事業を通じてコミュニケーションを深め、ニーズに即した事業展開を心がけることにより、これからも地域の皆様に愛され、必要とされるクラブとなるよう努力を続けてまいります。

箕面RC 会長

上島一彦

箕面ロータリークラブは「超我の奉仕」を原点に、地域社会において真に必要なとされるクラブを目指して、今後の活動に取り組むたいと考えています。

本年度から、ロータリー財団の「未来の夢計画(FVP)」が新システムとして導入されますが、当クラブでも、新地区補助金を活用して、「薬物乱用撲滅キャンペーン大会(10/5)」関連プロジェクトを実施します。

「薬物乱用撲滅キャンペーン大会」では、大阪府の中原教育長、箕面市の倉田市長等によるパネルディスカッションの他、世界大会で優勝した府立・箕面高校ダンス部によるパフォーマンス等を通じて、薬物乱用の危険性を広く青少年に呼びかけて参ります。

また、地域の各種団体との連携を図り、阪大環境サークルGECSとの箕面川清掃、箕面RC杯ゲートボール大

会や、シンボルロード・クリーン作戦等、地域社会のニーズに応えるプロジェクトを実践して、ロータリーの社会的認知度を向上すれば、クラブの会員増強にも繋がります。

現在、25名の会員ですが、このままクラブ会員の減少傾向が続けば、財政が硬直化し、特定の会員に過重な負担をかけるため、奉仕活動を縮小せざるを得ない事等、悪循環を招いてしまいます。

新会員に入会をお願いする事は全ロータリアンの責任であり、クラブの存亡をかけた会員増強に一丸となつて取り組みます。

「いまだ見ぬ人を探し、人から学び、人を育てる」、「量

は質に転化する」等、すでに増強の議論は尽くされており、もはや行動あるのみです。

さらに、会員増強は新会員を入会させて終わるのではなく、新会員がクラブの活動に意欲的に参加し、互いの親睦を深め、奉仕活動の意義を実感出来るようになって初めて、目的が達成されます。

また、本年度は国際ロータリー第2660地区・第1組・インターシティー・ミーティングのホストクラブを担当(4/12)しており、米国弁護士としての国際的な経験と明確な教育ヴィジョンを併せ持つ、大阪府の中原教育長の講演等を通じて、各クラブの「新世代奉仕」活動の充実につなげたいと願っております。

箕面千里中央RC 会長

原 たかし

本年度のRI会長はロン・D・バートン氏です。RIテーマは「ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES」「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」です。

重点目標は、

- 人道的奉仕の重点と増加
- クラブのサポートと強化
- 公共イメージと認知度の向上 です。

RI第2660地区ガバナーは福家 宏氏です。地区の方針は「感動の体験を!! 人々にも自身にも」Participate!!~参加し、敢行しよう~です。

重点目標は、

- 会員の維持・増強
- ポリオ撲滅
- FVP: 未来の夢新補助制度
- 東日本震災復興支援
- 広報活動 です。

上記の内容詳細については、ロータリー発行冊子及び地区HP等でご理解をお願いします。

我がクラブは本年で34周年を迎えます。当クラブの

活動の特色として、国際奉仕・地域奉仕・クラブの親睦を引き続き行っていききたいと思っております。

一時は会員58名、平均年齢50歳でしたが、現在は21名、平均年齢70歳代のロータリアンでスタートします。私が入会して27年目になります。

人材にすぐれた少数精鋭の個性あるクラブですが、ここで再度初心を振り返り行動していききたいと思っております。ロータリーの誕生とその成長やロータリーの綱領を理解し、特に四つのテスト

- ①真実かどうか
- ②みんなに公平か
- ③好意と友情を深めるか
- ④みんなのためになるかどうか

を、常に念頭において行動していききたいと思っております。

限られた人数で活動するにあたり、クラブ会員が望んでいることを集約し、クラブの独自性を理解し、理事・役員会、各委員会、各委員を通じて、コミュニケーションを重視、情報を共有しつつ、新アイデアを出し合える素晴らしいクラブにしていくつもりです。どうか皆様の理解と賛同をお願いします。

豊中RC 会長

横田広司

私ども豊中ロータリークラブは、平成25年8月末現在、会員数46名、うち在籍5年以内の会員は17名です。直近5年間では会員数45名前後で大きな増減はなく、毎年の自然退会の人数を会員増強でカバーしている状況です。

また、クラブの奉仕活動としては、職業奉仕、青少年奉仕の「出前授業」、国際奉仕の「グローバル Grant」をここ十数年継続して行っており、当クラブの重要な活動

になっています。

ただ、活動の中心はベテランの会員になっており、次世代の会員への継承が急務と思われれます。

会員育成は単年度の取組みでも必要ですが、継続性を持たせた長期的な取組みが大切だと思います。より多くの活動に参加してもらい、ロータリーの奉仕を理解いただき、個々にあった奉仕が見出せるようクラブ全体で取り組んでいく所存です。

豊中南RC 会長

水野 茂

7月4日、本年度第一回目の例会で二年ぶりの新入会員をお迎えし、現在29名のメンバーで和気藹々とロータリー活動に勤しんでいます。

2020年東京オリンピックの開催決定で盛り上がるわが国日本ですが、7年後の当クラブを想像すると楽天的な私ではありますが、会員数的にあまり喜ばしい状況ではないと予測します。

50年後の日本の人口は35%減少して8,000万人と推定されています。

高齢過疎化した集落で抜本的な改革方法が見出せないまま先送りすると、やがて医療、教育等の市民サービスが受けられなくなりXdayを迎えます。

やるべき活動、維持増強は精一杯やる。ロータリー活動の素晴らしさはあらゆる方法で広報することを約束する前提で、人口と世相に応じたクラブ数への統廃合を行う必要があると考えます。精神論、根性論ではなく現実を見据えた調整が理想の奉仕を永続的に行う方法ではないでしょうか。

豊中一大阪国際空港RC 会長

田中竹二

私共のクラブは、会員が20名から21名の間を彷徨しているクラブです。関空が開港する迄は、70名余の会員を擁するクラブでした。現在、会員増強に力を注いでいるところですが、なかなか成果が上がらないのが実状です。

反省点としては、奉仕活動の消極的な姿勢にあったのではと思っています。例会に出席し、親睦、友情と思い

やりに支えられた奉仕に傾注すべきであるということ、そして実践した事から習得した事例を職業奉仕へ繋ぎ、地域社会に奉仕する。全ての行動は職業奉仕に通じるのであり「職業奉仕こそ、ロータリーを活性化」させるものと思っています。

遅まきながら、昨年度後半、老人施設を慰問し、車椅子の寄贈も実践しました。これらの実績を基に、新入会員

の発掘に努力したいと考えています。

国際奉仕部門では、台湾・桃園東ロータリークラブとの姉妹提携関係の強化に力を入れたいと思っています。

3.11東日本大震災では、逸速く450万円の義援金を送金して下さった、大変親日家の国であり、年に1回交流を深めているのです。同ロータリークラブの姉妹クラブでもある、韓国・東安養ロータリークラブとも年1

豊中千里RC 会長

森田正治

元来、ロータリークラブの出発は社会的にも精神的にも、またしっかりした論理性を持った商取引が出来る仲間がロータリーを創立しました。その成長過程で商取引の他に、社会奉仕化国際化等が社会的に必要となってきました。

その奉仕活動により一般社会に於いて認められてくようになったのです。ロータリークラブに入会する人は、人格的にすぐれた人と又信頼できる人との交流を求めてロータリークラブに入会するのではないでしょう

か？
回交流を図る事になり、回を重ねる毎に、親しくなり、政治的な事は別として、親善に双方努め、友好的な姿勢で互いに理解し合うようになった事は大変有意義で今後も継続したいと考えているところです。

私共クラブは概ねこの様なクラブであります。まだまだ42周年を迎えた未熟なクラブですが、どうか皆様のご指導をよろしく願います。

か？

そのためには「親睦に始まり親睦に終わる」と言われて来ましたことを実践し、一人でも多くのメンバーと交流する機会を増やして、地域社会とのつながりや奉仕活動などを通じて相互の信頼又友情へと進んで行き、それがクラブ内の融和と向上を造っていくのではないのでしょうか。それが、人材の育成と会員勧誘への動機となり、新入会員も増加しクラブ自身の向上につながると思います。その様なクラブを目指しています。

災害支援プロジェクト報告 (第28回)

災害支援プロジェクト委員長

高島凱夫 (大阪中之島RC)

1. 災害支援プロジェクト寄付送金口座

りそな銀行 大阪営業部 普通 1527285

口座名義：第2660災害支援 会計 片岡基博

(ダイニロクロクゼロサイガイシエン カイケイ カタオカモトヒロ)

2. 災害支援地区基金の状況 (2013年9月17日現在)

【収入】

(単位:円)

	地区クラブ名および寄付者名	寄付金額	備考
1	前年度からの繰越	1,211,870	
2	大阪RC	100,000	インド支援金
3	大東中央RC	20,000	インド支援金
4	香里園RC	10,000	インド支援金
5	大阪帝塚山RC	9,764	募金箱寄付(基金)
6	門真RC	27,000	インド支援金
7	大阪フレンドRC	30,000	インド支援金
8	守口イブニングRC	28,000	インド支援金
9	八尾中央RC	50,000	基金
10	大阪うつぼRC	27,200	インド支援金
11	東大阪東RC	100,000	基金
12	大阪難波RC	59,060	基金
13	東大阪東RC	34,000	インド支援金
14	利息	4	
15	大阪南西RC	30,000	基金
16	東大阪みどりRC	60,000	基金
17	交野RC	50,000	基金
18	東大阪RC	50,000	基金
19	東大阪西RC	50,000	基金
20	大阪城北RC	57,000	基金
21	門真RC	62,000	基金
22	高槻西RC	43,000	基金
23	大阪中央RC	50,000	基金
24	大阪鶴見RC	50,000	基金
25	吹田RC	50,000	基金
26	大阪リバーサイドRC	50,000	基金
27	大阪エバーグリーンRC	80,000	基金
28	大阪フレンドRC	50,000	基金
29	守口RC	50,000	基金
30	大阪心斎橋RC	50,000	基金
31	大阪帝塚山RC	50,000	基金
32	内海閑一郎(大阪梅田RC会長様)	30,000	基金
33	枚方RC	50,000	基金
34	東大阪中央RC	50,000	基金

35	大阪東淀ちややまちRC	50,000	基金
36	吹田西RC	50,000	基金
37	大阪咲洲RC	50,000	基金
38	八尾RC	122,000	基金
39	大阪イブニングRC	50,000	基金
40	大東RC	66,000	基金
41	寝屋川RC	81,000	基金
42	豊中千里RC	51,000	基金
	合計	3,238,898	

【支出】

(単位:円)

	地区基金支出内容	金額	備考
1	東大阪東RC・宮城県南三陸町平成の森仮設住宅支援事業	435,600	地区基金申請No.55
2	振込手数料	100	
3	大阪御堂筋本町RC・大阪御堂筋本町RAC 東北支援プロジェクト	210,923	地区基金申請No.54
4	振込手数料	400	
	合計	647,023	

【残高】

(単位:円)

預金残高	2,591,875	2013年 9月17日現在
------	-----------	---------------

地区ロータリー財団セミナー報告

ロータリー財団情報

ロータリー財団委員会 委員長

溝畑正信 (東大阪東RC)

日時：2013年8月31日(土) 14:00~17:00

場所：大阪YMCA 会館 2Fホール

地区ロータリー財団セミナーがG主宰で開催されました。クラブの会長、ロータリー財団委員長、奉仕部門担当実務者の皆様を対象に、福家 宏G、菅生浩三元RI理事/PG、近藤雅臣元RI理事/PG、井上暎夫第3ゾーンRコーディネーター/地区研修委員会リーダー/PG、戸田 孝PG、大森慈祥PG、寺田和之PG、若林紀男 地区研修委員会サブリーダー/PG、大谷 透地区R財団部門顧問/地区研修委員会サブリーダー/PG、地区財団監査委員会委員長 岡部泰鑑PG、災害支援プロジェクト委員長 高島凱夫直前G、泉 博朗GE、地区研修委員会、AG、AGEの皆様など多数の指導者のご参加を頂きました。司会は山田正雄地区代表幹事が務められました。

福家 宏G

ロータリー財団は、本年度から“Future Vision Plan = FVP”の実行年度に入り、多くのクラブが昨年度地区補助金を使つての奉仕プログラムの申請をされ、承認を受けたものを今年度実施して頂く。グローバル補助金も現時点で4件の承認を受けた。ぜひ今年度も積極的に取り組んで頂きたい。さらに、2つのお願いとして、一つは、ロータリー平和センターに寄付支援、これは地区内ロータリアンで恒久基金1万ドル以上のメジャードナーにはロータリー平和センターへの基金に転換して頂き、またロータリー平和センターの冠名基金設立は25,000ドルからであり、その金額に近い方に残りの寄付をお願いし冠名基金設立にもって行っていただきたい、もう一つは、国際ロータリー第2530地区福島復興キャンペーン“会津の里にこらんしょ!”にご協力、ご支援をお願いしたいと、挨拶されました。

財団部門顧問 大谷 透PG

リスボン国際大会での田中作次直前RI会長の挨拶を引き合いに、世界で支援を待っている人たちに、自身の子供、孫、家族にすると同じように考えてほしい、そして

日本ロータリー平和センター支援委員会委員でもある大谷PGは、ICU東ヶ崎記念ダイアログハウスに支援協力募金のお願いをされました。国際基督教大学(ICU)は、世界で8か所あるロータリー平和センターのある大学の一つで、アジア圏で唯一の平和および紛争解決の分野における国際問題研究のためのロータリー平和センター(修士課程)が設置されている学舎、世界平和と人類の幸せ、ロータリー平和フェロウシップ制度の意義をご理解ください、と話されました。また、トルコとのVTTの可能性について言及されました。

災害支援プロジェクト委員会 委員長 高島凱夫PG

東日本大震災が発生して、すでに2年5カ月が過ぎようとしているが、復興は遅々として進んでいない。

「地区災害復興支援基金」への資金拠出願いと、この資金とのマッチングでの支援、「地区補助金」と「地区災害復興支援基金」との上手な使い分け、また、地区内全ロータリークラブに「クラブ災害支援基金」創設の推奨をされました。

東日本大震災への支援は、数年に亘り行われなくてはならない大きな事業であり、さらに他の災害支援に対して地区の方針を模索し、実践したいので、是非ご支援をお願いしたい、と話されました。

溝畑正信ロータリー財団委員長

ロータリー財団 未来の夢計画 新補助金制度というタイトルで、ロン・D・バートン2013-14年度RI会長の、“新補助金モデルとは：ロータリー財団の新たな時代の幕開けであり、人々の人生を豊かにするロータリーの可能性を実現する機会である、持続可能な国際プロジェクトを促すと同時に、地域社会のニーズに応える地元プロジェクトの柔軟性を高めることによって、ロータリーを新しい次元へと昇華させるものである”、を紹介し、財団目標の、ポリオ撲滅、未来の夢計画、財団の教育的プログラムと人道的プログラムへの参加を通じて世界に平和を育む、全ロータリアンにロータリー財団への寄付を奨励、財団の資金を守る、に沿って話しました。未来の夢計画は、ロータリーという組織全体に有益であ

るという考えの下に立ち上げられたものであり、新地区補助金、グローバル補助金を通じて、より良いプロジェクトが実施されれば、地域社会により大きな影響を与えることができる。ロータリーの公共イメージも高まると考えられる。そうなれば寄付の増加、クラブの活性化、より良いプロジェクトへとつながる、と話しました。

ポリオ・プラス小委員会 木村芳樹委員長

まず、日本におけるポリオの歴史を紹介し、ポリオの現状、1985年以来、ポリオの発症数は99%減少し、年間35万件だった当初と比べ、2011年には650件に、2012年には223件になった。現在野生ポリオウイルスの常在国は、アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンの3カ国で、インドではポリオ無発症の状態を維持しているが、アフリカの角での野生株1型の流行がソマリアで広がっている、残る1%の、容易でないポリオ撲滅運動への協力を要請致しました。

寄付増進小委員会 今西敦之委員長

ロータリー財団の寄付と認証：寄付の種類<年次基金および用途指定寄付、恒久基金>、認証の種類、クラブ別年次寄付一覧、ロータリー財団への寄付は、税制上の優遇措置の対象となることについて話し、財団への寄付増進とロータリーカードへの入会を要請致しました。

ポールハリス・ソサエティ 辻川功一コーディネーター

本年度から任命されました。ポールハリス・ソサイ

アティは、年次基金、ポリオ・プラス、財団が承認した補助金プロジェクトへ、年間1,000米ドル以上を寄付頂いたロータリアンやロータリー財団支援者を認証するためのプログラムで、理解と協力を要請致しました。

資金管理小委員会 和氣 圭委員長

クラブ覚書(MOU)について、クラブ参加資格、財務管理計画、銀行口座に関する要件、補助金資金の使用に関する報告、書類の保管、補助金資金の不正使用に関する報告について説明しました。

財団補助金小委員会 宮里唯子委員長

財団プログラムと補助金について、新しい財団補助金には地区補助金、グローバル補助金、パッケージ грантがあること、FVP導入の理由と目的、新しい補助金と活動、さらに当地区での地区補助金申請要項、グローバル補助金について、6重点分野、職業研修チーム(VTT)、グローバル補助金申請要項について、そしてDDF申請要項、補助金申請要件、地区補助金申請スケジュール(2014年)、地区補助金申請の留意点、地区補助金の報告書、2012-13年度地区補助金は44クラブが承認を受けた、現時点でグローバル補助金が4件承認されていることを報告致しました。

奨学金・学友・ロータリー平和フェロウシップ担当グループ 梅崎道夫リーダー

国際関係、平和研究、紛争解決とその関連分野の修士



米山奨学委員会／ロータリー財団

地区米山奨学委員会より

2013年 7月末	全国寄付金合計額 ……………	205,015,352円	(前年度比2000万円増)
	第2660地区寄付金合計額 ……………	11,601,450円	(前年度比47.82%増)
	全国寄付合計トップ10		
	1. 第2750地区	14,676,150円	
	2. 第2770地区	13,738,500円	
	3. 第2760地区	12,484,300円	
	4. 第2660地区	11,601,450円	
	5. 第2650地区	10,795,800円	
	6. 第2690地区	8,908,500円	
	7. 第2790地区	8,752,700円	
	8. 第2700地区	8,592,250円	
	9. 第2580地区	7,988,350円	
	10. 第2590地区	7,929,000円	

号、あるいは平和と紛争解決の分野の専門能力修了証の取得を目指す学生にロータリー平和フェローシップを提供するロータリー平和フェローシップ生の募集、およびグローバル補助金奨学生の募集について説明の後、当地区は本年度すでに2名のグローバル奨学生が留学していることを報告致しました。

講評・閉会挨拶

泉 博朗GEは、本日の財団セミナーに携わった財団部門各位に労をねぎらわれ、そしてクラブに対して、地区83クラブのうち、地区補助金で44件が承認され、グローバル補助金ですでに4件承認を受けているのは素晴らしいことであり、今後とも取り組んで頂きたいと講評と閉会の挨拶をされました。

質疑応答

前もって頂いていた質問には、当日お答えし、また当日の質問にもお答えしました。

なお、地区ロータリー財団セミナーの詳細は、地区ホームページをご覧ください。

ロータリー財団の補助金

日本のGG補助金申請状況

(8月20日現在)

GGプロジェクト	奨学金	VTT	人道的	合計
最初のステップ	—	—	—	—
申請書作成中	3	6	7	16
提出済	—	—	3	3
承認済	21	1	1	23

第2660地区はこのうち奨学金2、人道的1が承認済です

ポリオ症例数

2013年8月28日現在のポリオ症例数です

	2013年1月1日～8月28日	2012年
アフガニスタン	4	37
パキスタン	25	58
ナイジェリア	43	122
ポリオ常在国以外	チャド	5
	エチオピア	1
	ケニア	13
	ソマリア	128
	ニジェール	1
世界合計	214	223

2013年8月28日現在のポリオ症例数です。現在、ポリオ常在国はアフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアの3カ国です。

ソマリアでポリオの発症が広がっています。隣国のエチオピアでも2006年以来、初めてポリオの発症が確認されました。この状況に対応するため国際ポリオ・プラス委員会の勧告を受け、財団管理委員長は50万ドルの補助金を支出することを承認しました。

米山功労者

次の方たちに米山功労者の称号が贈られました。(2013年7月)

氏名	回数	クラブ名
谷本 勲一	1回目	茨木西RC
櫻井 京子	1回目	茨木西RC
新子 茂生	2回目	大阪なにわRC
境 高彦	7回目	大阪城南RC
西尾 誠一郎	1回目	大阪大淀RC
島 伸彦	5回目	大阪大淀RC
岩本 潤三	6回目	大阪大淀RC
小田 晃三	1回目	大阪淀川RC
奥村 宗彦	1回目	池田くれはRC

氏名	回数	クラブ名
森田 正治	1回目	豊中千里RC
長澤 格	1回目	豊中千里RC
仲 光男	2回目	枚方RC
田邊 誠	2回目	枚方RC
西本 和彦	2回目	枚方RC
澤村 繁	3回目	枚方RC
庄司 修二	2回目	箕面RC
芝野 弘三郎	5回目	箕面RC

米山功労クラブ

次のクラブに米山功労クラブの称号が贈られました。(2013年7月)

クラブ名	回数
茨木西RC	14回目
東大阪東RC	42回目
枚方RC	27回目

米山功労法人

次の方に米山功労法人の称号が贈られました。(2013年7月)

会社名	回数	クラブ名
広栄株式会社	1回目	東大阪東RC

文庫通信 (312号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー 50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約23,000点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

講演より

- 「日本人が知るべき、日本人の精神・美しさ・誇りとは…」
竹田恒泰 2013 6p (D.2600 地区大会報告書)
- 「チーム力」
柿本倫明 2013 5p (D.2600 中信第二グループIM報告書)
- 「"超"ものづくりへの挑戦—これからの100年をデザインする」
奥山清行 2012 27p (D.2550 地区大会記念誌)
- 「動物と人 共に生きる」
伊藤年一 2012 7p (D.2750 インターアクト年次大会報告書)
- 「思いやりの気持ちが平和をつくる」
紺野美沙子 2013 2p (D.2760 地区大会記録誌)
- 「進化するX線技術と社会へのインパクト」
村松康司 2013 2p (D.2680 西播第2グループIMReport)
- 「私の登った外国の山々」
渡辺玉枝 2013 4p (米山梅吉記念館館報21号)
- 「『荒城の月』原曲」
岡村 健 2012 4p (福岡南RC会報)
- 「『故郷：ふるさと』～柳の下のどじょう?」
岡村 健 2012 6p (福岡南RC会報)

[以上申込先：ロータリー文庫]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館 午前10時～午後5時 休館 土・日・祝祭日

敬 弔

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

草 島 一 会員 (大阪南RC)

2013年 8月29日 逝去 (享年85歳)

米山功労者 (マルチプル)
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

お知らせ

■例会場の変更

大阪御堂筋本町ロータリークラブ
ホテル日航大阪 32階「ジェットストリーム」 → ホテル日航大阪 32階「スカイテラス」

ガバナー・エレクト業務開始のご案内

ガバナーエレクト 泉 博朗 (大阪帝塚山RC)
10月1日よりガバナー・エレクト業務をスタートいたしました。 次年度地区代表幹事 川上 富清 (大阪帝塚山RC)

所在地：〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6F
電話 06-6264-2660 FAX 06-6264-2661 E-mail gov@ri2660.gr.jp

執務時間：月曜日～金曜日 9:30～17:30 ※土・日・祝は休ませていただきます。

事務局員：井上 望美

月信編集委員会からのおねがい

- ガバナー事務所への月信に関するご連絡は、FAXまたはE-mailにてお願い致します。折り返し、できるだけ早くご連絡致します。
- 投稿は原稿(写真付きの場合は一緒に添えて)を掲載月の前々月20日までに、事務所必着でお送り下さい。原稿はなるべくパソコンでの作成をお願い致します。掲載の採否、字数の整理、並びに止むを得ない掲載月の変更等につきましては、月信編集委員会にご一任下さい。
- 物故会員のご連絡は、専用の用紙にてFAXをお願い致します。
- 今年度の月信につきましては、各クラブ理事・役員・事務局・備品用に、各クラブの会員数に応じて部数を設定し、無料配布致します。また、ご希望の会員には有料(年間2,200円・1冊200円)配布させていただきますので、出来るだけ多くの方のお申込みをお待ちしております。

月信編集委員会

- ガバナー 福家 宏
- 地区代表幹事 山田 正雄
- 地区副代表幹事 中井 敬和
- 担当地区幹事 吉本 憲司
- 担当地区幹事 山本与志弥
- 事務局長 栗正 久美

2013—2014年度
国際ロータリー 第2660地区

ガバナー事務所のご案内

●事務局スタッフ

ガバナー	福家 宏
地区代表幹事	山田 正雄
地区副代表幹事	中井 敬和
事務局長	栗正 久美
事務局員	春名 志保
	奥田 純子
	井上 望美

●所在地

〒541-0052
大阪市中央区安土町1-5-11
トヤマビル東館6階
TEL 06-6264-2660
FAX 06-6264-2661
E-mail gov@ri2660.gr.jp

●ホームページ

<http://www.ri2660.gr.jp/>

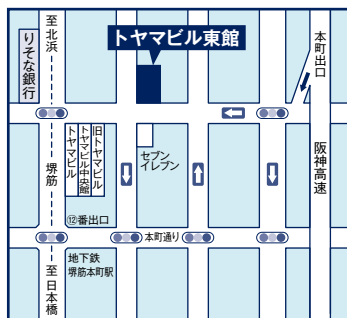
●勤務時間

9:30~18:00

●休日

土曜、日曜、祝日

年末年始
2013年12月28日(土)~
2014年1月5日(日)



※地下鉄堺筋線 堺筋本町 ⑫番出口すぐ

ガバナー事務所に会議室を併設しております。

最多 36名

詳細はガバナー事務所までお問い合わせください。

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660 GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

国際ロータリー 第2660地区

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6階
TEL : 06-6264-2660 FAX : 06-6264-2661 E-mail : gov@ri2660.gr.jp

Rotary International District 2660

Toyama Bldg. East 6F, 1-5-11 Azuchi-machi, Chuo-ku, Osaka 541-0052 Japan
TEL : +81-6-6264-2660 FAX : +81-6-6264-2661 E-mail : gov@ri2660.gr.jp